

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第1257号	氏名	宮崎 俊雄
論文審査担当者		主査教授	門司 和彦
		副査教授	青木 克己
		副査教授	由井 克之
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価</p> <p>本研究は、医学的重要性を増している自由生活アメーバ <i>Acanthamoeba</i> の汚染について、水を入れた複数の容器をカバーの有無で分け、異なる季節下に屋内外に設置して、汚染度を検証したもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>夏秋冬春各々3週間、ガラス製容器複数個に飲用水道水又はオートクレーブ滅菌水道水を入れ、カバーの有無別に、屋内外に放置した。定期的に容器から水サンプルを採取し、顕鏡し、一部を培養し、形態学的特長から <i>Acanthamoeba</i> の栄養体またはシストが確認されたものを汚染陽性とした。また、<i>Acanthamoeba</i> を分離培養し、クローン化し、大量培養し、ミトコンドリア DNA を抽出し DNA 切断片のサイズを比較した。これらの研究手法は妥当である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価</p> <p>屋内カバー有り群は1例を除きアメーバ汚染は無く、屋外カバー無し群は春、秋、夏、冬の順で容易にアメーバに汚染された。陽性サンプルから夏4個、冬6個、春2個のクローンを得た。同一季節のすべての株は同一パターンを示したが、季節毎にパターンは異なり、標準株とも異なっていることを明らかにした。</p>			
<p>以上のように本論文は、<i>Acanthamoeba</i> の環境水汚染の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			